

2026年3月期第 1 四半期

(2025年4月1日～2025年6月30日)

決算説明資料



第一稀元素化学工業株式会社

【証券コード：4082】



INDEX

1. トピックス		3 ページ
2. 決算のポイント		4 ページ
3. 連結決算概要		5 ページ
4. 営業利益増減要因		6 ページ
5. 営業外損益、為替	 7 ~	9 ページ
6. 用途別説明	 1 0 ~ 1 7	ページ
7. 貸借対照表		1 8 ページ
8. 原料市場価格の状況		1 9 ページ
9. A P P E N D I X	 2 0 ~ 3 8	ページ

トピックス

■ ベトナム事業-改修工事完了-

当初計画から遅れていたベトナム事業の立ち上げは、**改修工事の完了により、設備が当初想定通りの能力を発揮できることを確認しています。これにより、稼働水準は向上し、生産は計画水準で順調に進んでおります。**さらに、この稼働水準の向上が効率改善を進め、原価低減は計画を上回るペースで進展しています。今後もこの好循環を維持し、コスト競争力を強化してまいります。

■ 配当方針の変更-DOEの追加-

これまで当社は配当性向30%を基準に配当を行ってきましたが、利益の変動により配当が大きく変動する場合があります。安定した株主還元を確保するため、**今期より配当性向に加えて株主資本配当率（DOE）1.8%を組み合わせ、安定的かつ持続可能な配当を目指します。**

2026年3月期 第1四半期決算のポイント

売上高

8, 100百万円

〔前年同期比 3.9%減 進捗率 23.8%〕

営業利益

525百万円

〔前年同期比 30.7%減 進捗率 52.5%〕

ポイント

- 戦略分野は電動車販売の鈍化等の影響を受け、半導体・エネルギー分野で大幅な減収となる一方、自動車排ガス浄化触媒分野ではハイブリッド車の普及拡大により販売数量が増加
- ベトナム事業の立ち上げ費用は減少したものの、戦略分野の大幅減収および人的投資の増加が影響し、営業利益は前年同期比30.7%減
- 顕在化した地政学リスクとベトナム事業の進展を背景に、当社製品の需要拡大を見込む

2026年3月期 第1四半期連結決算概要

■ ベトナム子会社への貸付金に起因する実質為替差損449百万円により当期純利益は赤字 (単位：百万円)

	2026年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	8,100	8,431	-331	-3.9%
売上総利益	2,385	2,163	222	10.3%
営業利益	525	758	-233	-30.7%
営業利益率	6.4%	9.0%	-2.6pt	-
経常利益	15	817	-802	-98.2%
純利益または純損失※	-1	403	-404	-
一株当たり四半期利益	-0.07	16.56	-	-
対ドル為替レート	144.59	155.85	11.26	7.8%

※親会社株主帰属純利益または純損失

売上高

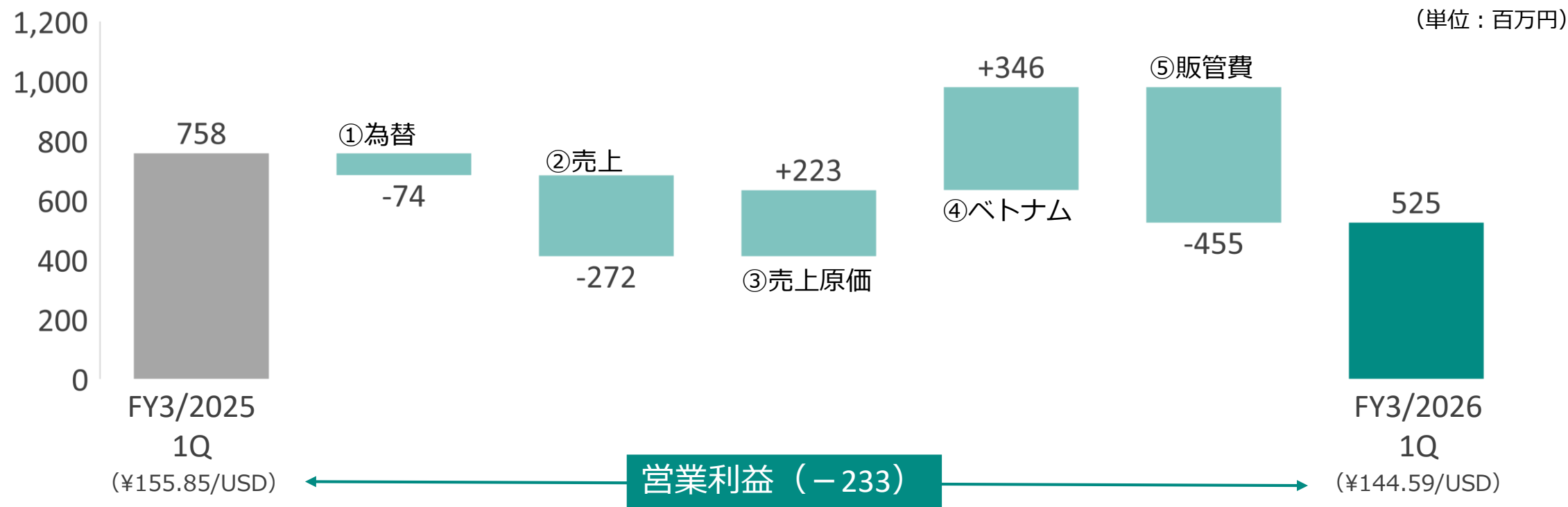
営業利益

為替変動による影響金額
為替感応度ドル/円
(1円の変動による影響額)

約 3 百万円の増収
8 0 ～ 1 0 0 百万円

約 7 4 百万円の減益
3 0 ～ 4 0 百万円

営業利益増減の要因（前年同期比）



①為替影響	-74	売上+3、原価-77
②売上による影響	-272	販売数量の減少-473 価格転嫁効果+220
③売上原価変動による影響	+233	在庫販売の影響+448 前期在庫調整による影響-300 生産活動の影響+116
④ベトナム子会社の影響	+346	立ち上げ時期の一時的な変動 +571 本格稼働開始に伴う費用増-211
⑤販売費及び一般管理費	-455	人的投資-222 専門家費用-138 システム保守-54

※有利差異は+、不利差異は-

営業外損益及び実質的な為替差益

(単位：百万円)

	2025年3月期				2026年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	758	797	772	-45	525
営業外収益（+）または費用（-）	+58	-1,598	+1,203	-1,315	-510
為替差益（+）または損失（-）	+723	-2,458	+2,046	-1,627	-722
デリバティブ評価益（+）または損失（-）	-347	+506	-383	+178	+169
貸倒引当金戻入額（+）または繰入額（-）	-212	+403	-339	+190	+103
その他	-105	-49	-118	-56	-60
経常利益	817	-800	1,976	-1,360	15
実質的な為替差益（+）または損失（-）	+164	-1,548	+1,322	-1,258	-449

- 主な外貨建資産：当社の売掛金、ベトナム子会社への貸付金等
- 為替差損益：為替差損が発生（親会社とベトナム子会社の会計期間に3カ月のズレがあります）
- デリバティブ評価損：ベトナム子会社への貸付金に係る為替変動リスクヘッジ
- 貸倒引当金繰入額：外貨建債権における未収入金の為替差益相当額

1USD=JPY

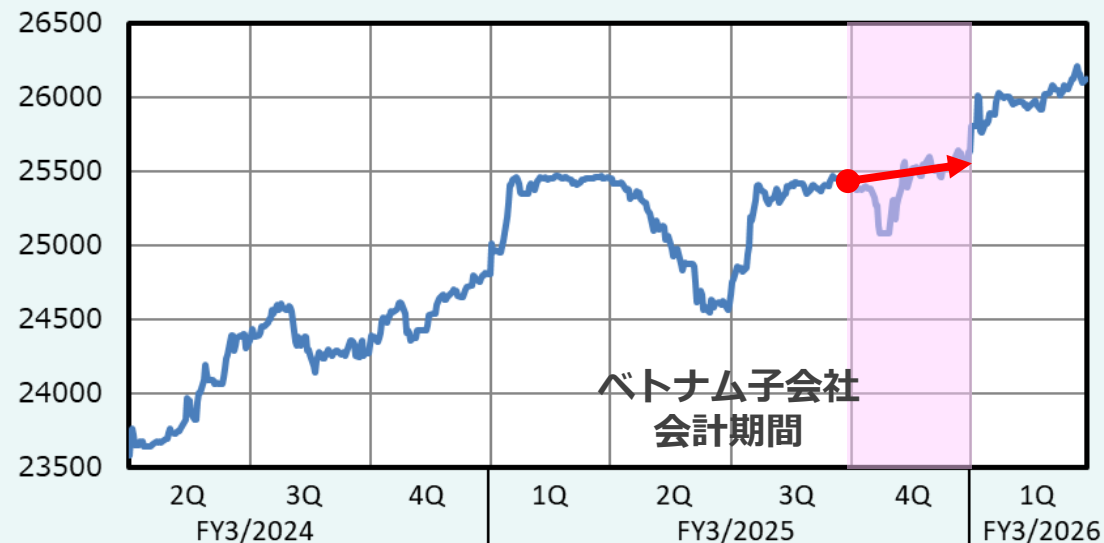
米ドルから日本円



※親会社の会計期間を表示

1USD=VND

米ドルからベトナムドン



※親会社の会計期間を表示

- 親会社からベトナム子会社への米ドル貸付（116百万ドル）を中心とした外貨建て資産に対して、
- 親会社会計期間2025年4月-2025年6月の期間では、円高ドル安方向に動き差損614百万円が発生
 - ベトナム子会社会計期間2025年1月-3月の期間では、ドン安ドル高方向に動き差損111百万円が発生

為替影響を受ける主要要因（親子ローン）

ベトナム子会社※

(借入)
USD
116M

当社

(貸付)
USD
116M

【当社調達】

USD借入

USD **35M**

通貨スワップ

USD **37M**

日本円借入

*未ヘッジ

USD **44M**

貸付
USD建

<差損益を計上する理由>

- 最大要因 ベトナム子会社への1.16億ドル貸付金
- 未ヘッジ部分：連結上は差益と差損が相殺される想定
→ 2つの環境変化で抑制効果が低下

<環境変化>

- 通貨スワップ導入後、FRB政策変更により円ドル金利差拡大
→ ヘッジ効果減少
- ドルとベトナムドンとの連動性が崩壊
→ 決算期ズレにより表面上差損益が膨らむ

<最近の動向>

- 円とベトナムドンが逆方向に動く → 差損益が重複して悪化

<今後の対応>

- 貸付金の削減（根本対応）
- ドン建て借入の導入

➡ いずれの対応も一定期間が必要であり、
当面差益・差損が発生するリスクが継続する

分野別販売実績と戦略分野の状況

(単位：百万円)

	2026年 3月期 1Q実績	構成比	2025年 3月期 1Q実績	構成比	前年 同期比	2026年 3月期 通期予想	進捗率
戦略分野	1,053	13.0%	1,613	19.1%	-34.7% ↓	5,900	17.8%
半導体・エレクトロニクス	371	4.6%	514	6.1%	-27.8% ↓	2,100	17.7%
エネルギー	268	3.3%	517	6.1%	-48.1% ↓	1,800	14.9%
ヘルスケア	414	5.1%	580	6.9%	-28.7% ↓	2,000	20.7%
自動車排ガス浄化触媒分野	5,129	63.3%	5,037	59.7%	1.8% ↑	19,300	26.6%
基盤分野	1,916	23.7%	1,780	21.1%	7.6% ↑	8,800	21.8%
合計	8,100	100.0%	8,431	100.0%	-3.9% ↓	34,000	23.8%

<戦略分野>

- 売上高は前年同期比35%の減収、主要因は半導体用途、SOFC用途等高付加価値製品の需要減

<自動車排ガス浄化触媒分野>

- 販売数量は前年同期比で5%の増加となったものの、原料価格の下落に伴う販売単価の下振れにより、売上高は同1%増にとどまる

<基盤分野>

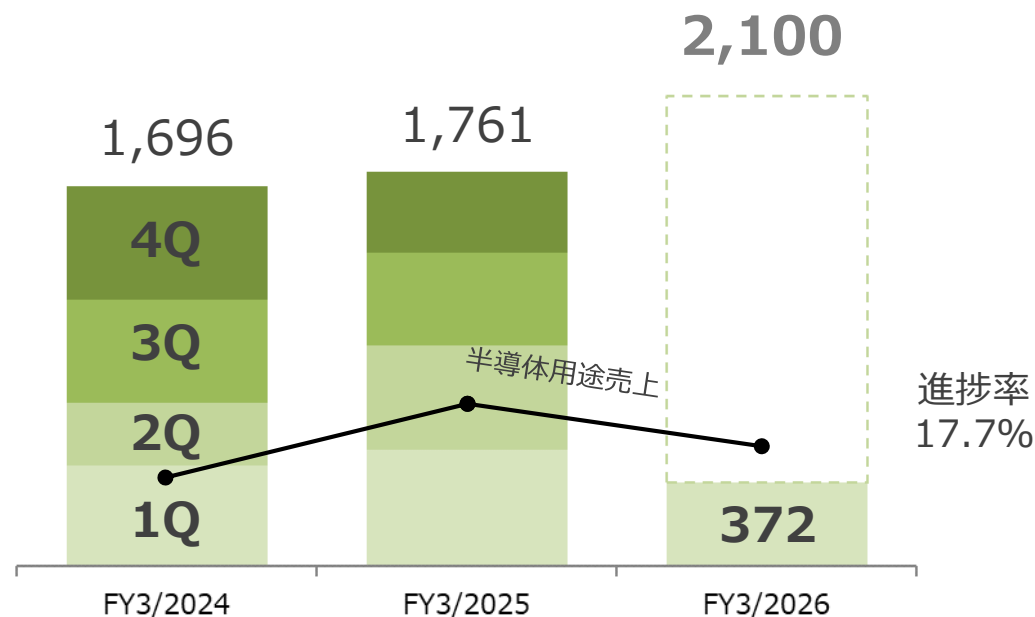
- 売上高は前年同期比7%増収。ブレーキ用途の原料価格上昇等により増収



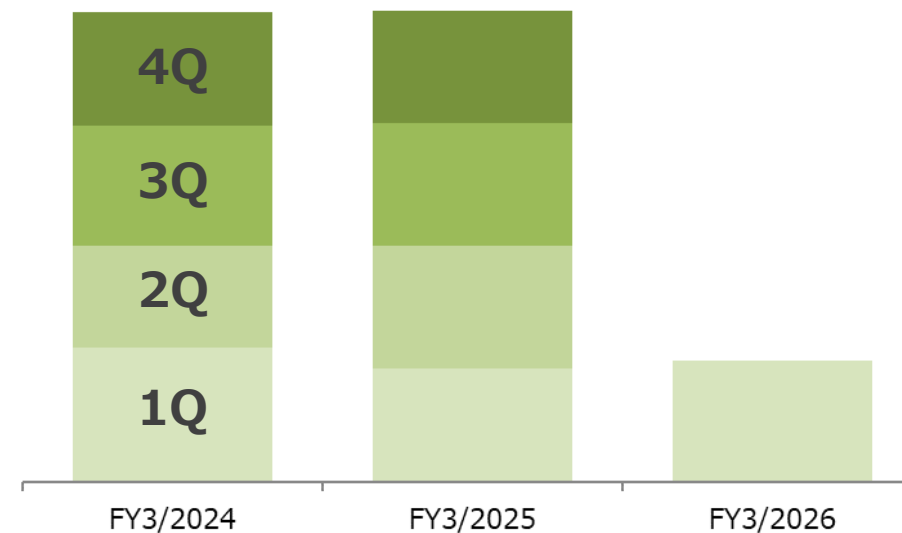
用途別販売実績：戦略分野（半導体・エレクトロニクス）

■ 売上高の推移

（単位：百万円）



■ 販売数量の推移

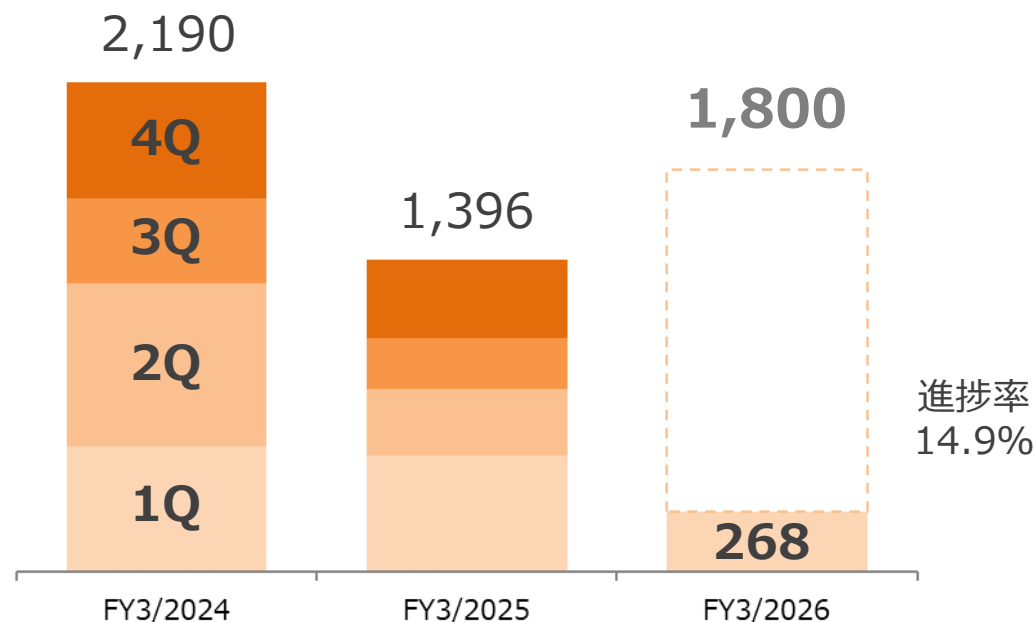


- 電子部品用途は、コンデンサ需要増に加え、市場に大きな成長は見られなかったもののセンサー関連を中心に当社への受注が増加し、売上は前年同期比29%の増収
- 半導体用途は、装置関連が堅調に推移した一方で、電動車市場の減速を背景に研磨関連の需要が落ち込み、前年同期比56%の減収
- 半導体・エレクトロニクス分野は、上記の結果により前年同期比29%の減収

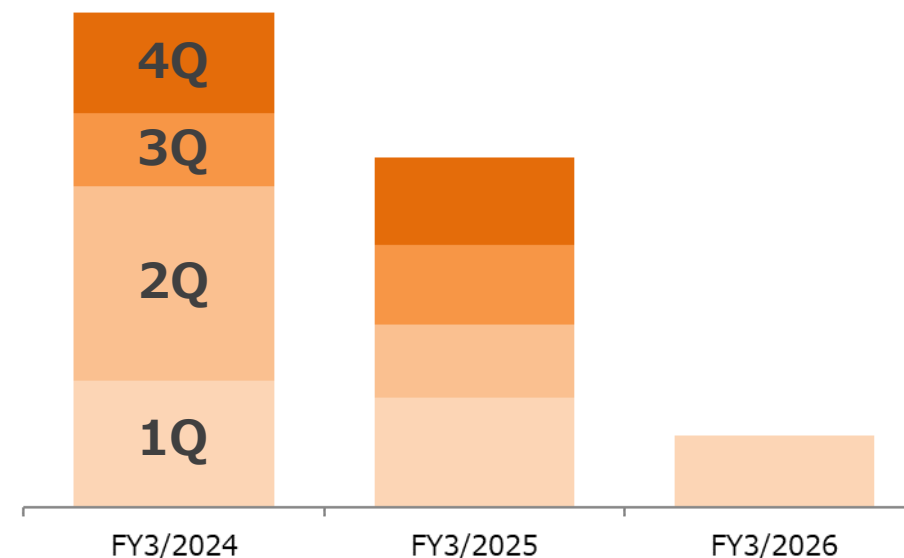
用途別販売実績：戦略分野（エネルギー）

■ 売上高の推移

（単位：百万円）



■ 販売数量の推移

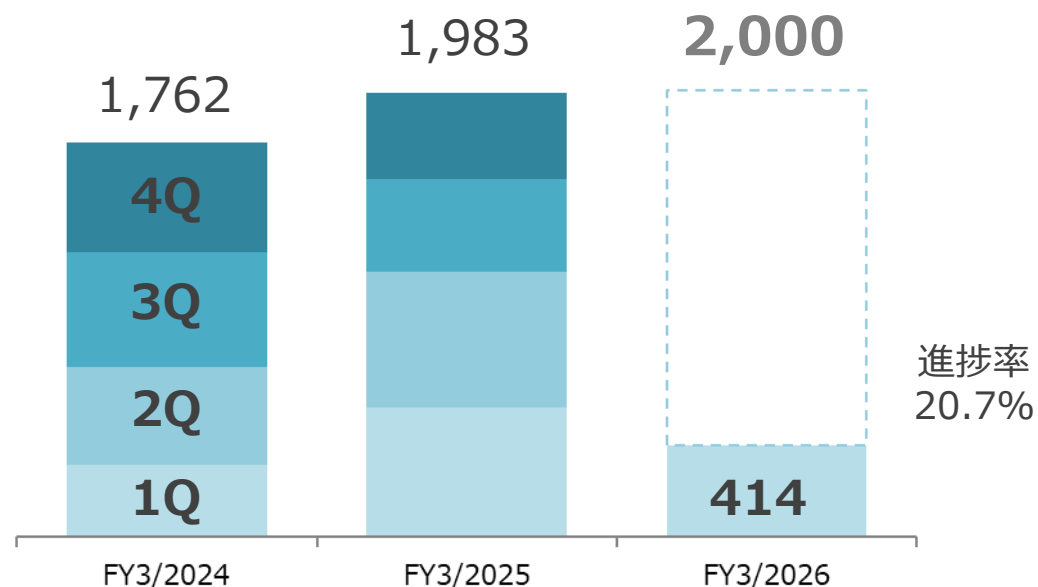


- 二次電池用途は、一部正極材メーカーで回復の兆しがあるものの、市場全体では需要が伸び悩み、前年同期比30%の減収
- SOFC/SOEC用途は、主要顧客の業績鈍化と顧客1社の事業撤退に伴う販売チャネル縮小の影響を受け前年同期比57%の減収
- エネルギー分野は、上記の結果により前年同期比48%の減収

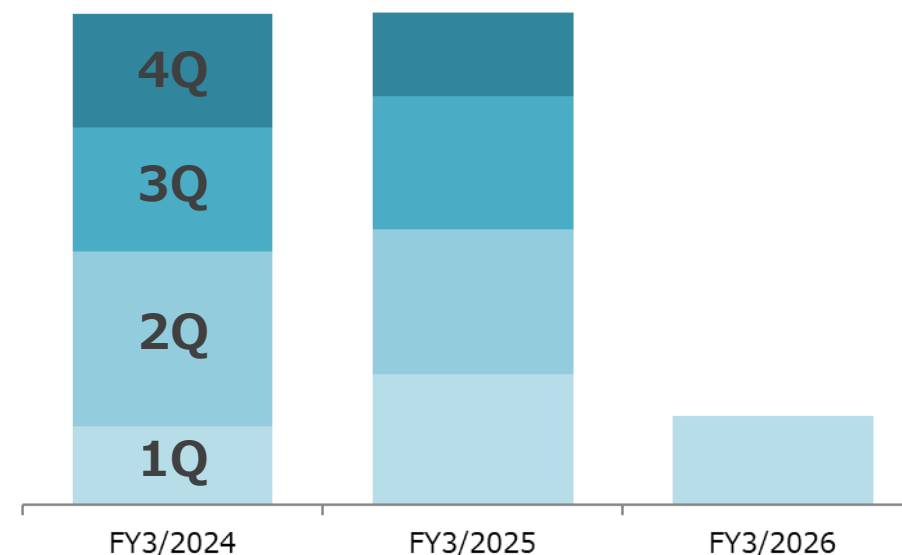
用途別販売実績：戦略分野（ヘルスケア）

■ 売上高の推移

（単位：百万円）



■ 販売数量の推移

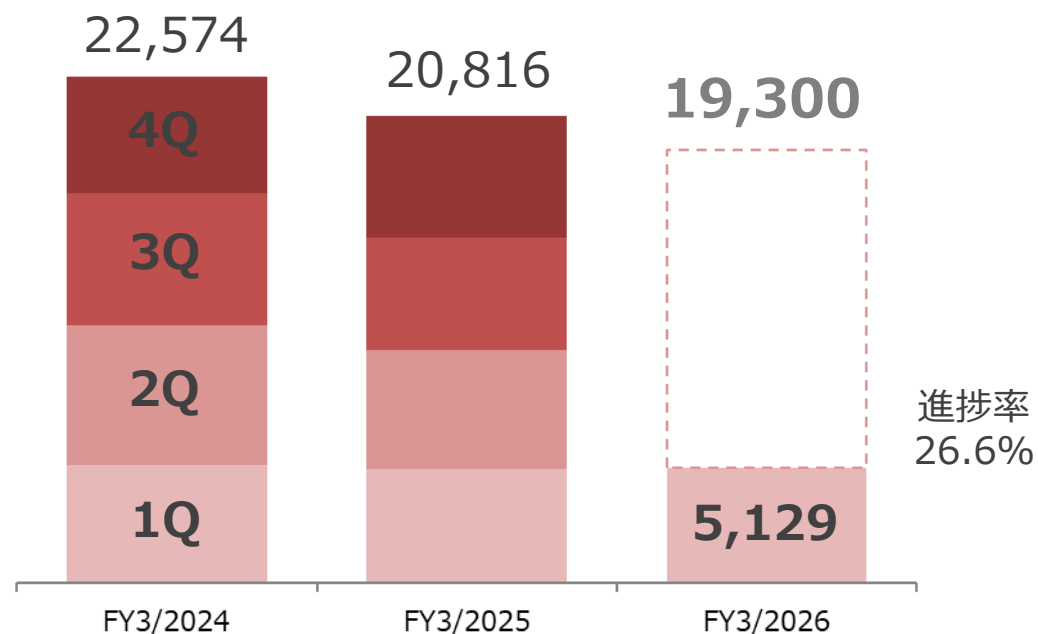


- 生体材料用途は、主要顧客において工程変更による一時的な需要鈍化等により当社材料の使用減少が影響し、前年同期比32%の減収。一方で、市場全体は比較的安定した動向を示し、安定した需要環境のもと前期比では9%の増収
- ヘルスケア分野は、上記の結果により前年同期比29%の減収

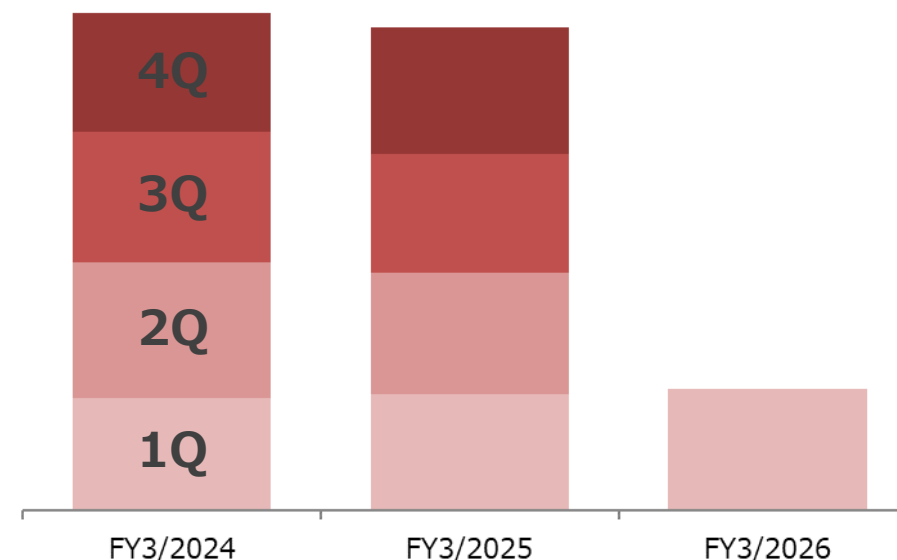
用途別販売実績：自動車排ガス浄化触媒分野

■ 売上高の推移

(単位：百万円)



■ 販売数量の推移

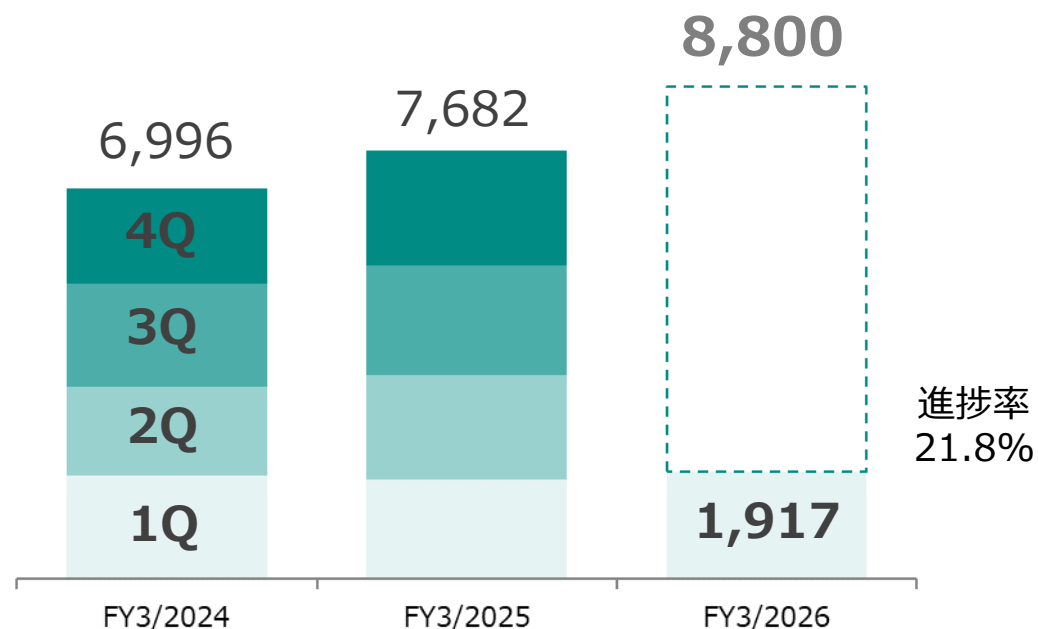


- 自動車排ガス浄化触媒用途は、ハイブリッド車の需要拡大を背景に販売数量は前年同期比で6%増加したものの、原料価格の下落に伴う販売単価の低下が影響し、売上高は前年同期比で1%の増加にとどまる

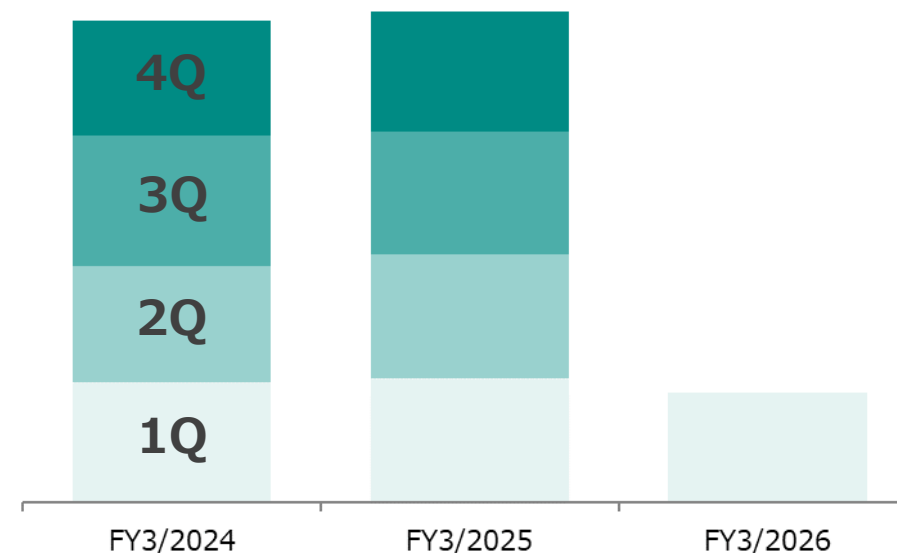
用途別販売実績：基盤分野

■ 売上高の推移

(単位：百万円)



■ 販売数量の推移



- ブレーキ材用途は、東アジア地域での販売数量減により全体では8%の減少となったものの、原料価格の高騰に伴う販売単価の上昇が寄与し、売上高は前年同期比17%の増収
- ブレージング用途は、新興国の自動車向け材料の需要増により、前年同期比6%の増収
- 基盤分野は、上記の結果により前年同期比7%の増収

エネルギー分野 二次電池 電池タイプの需要動向

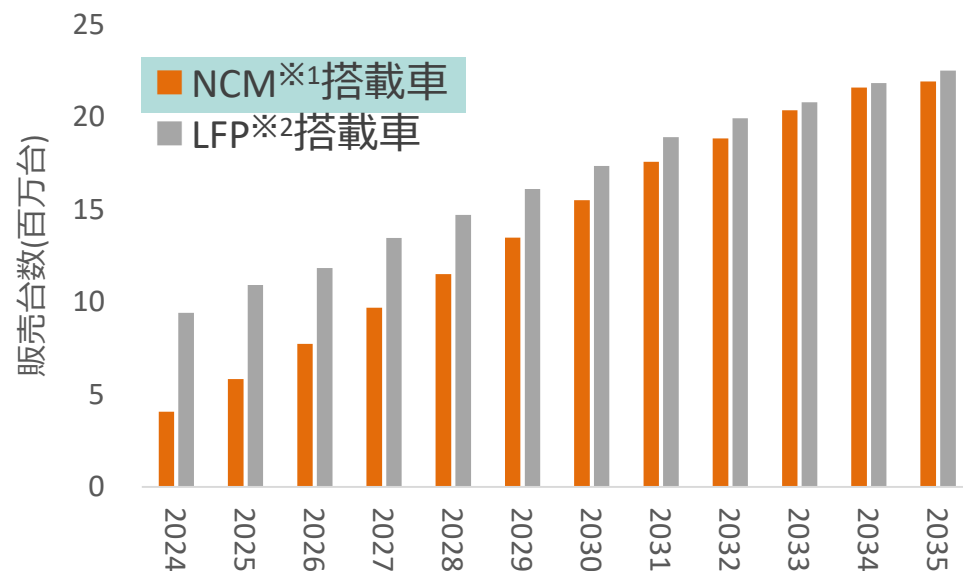


図1. 世界のNCM搭載車及びLFP搭載車の販売台数(2024年)

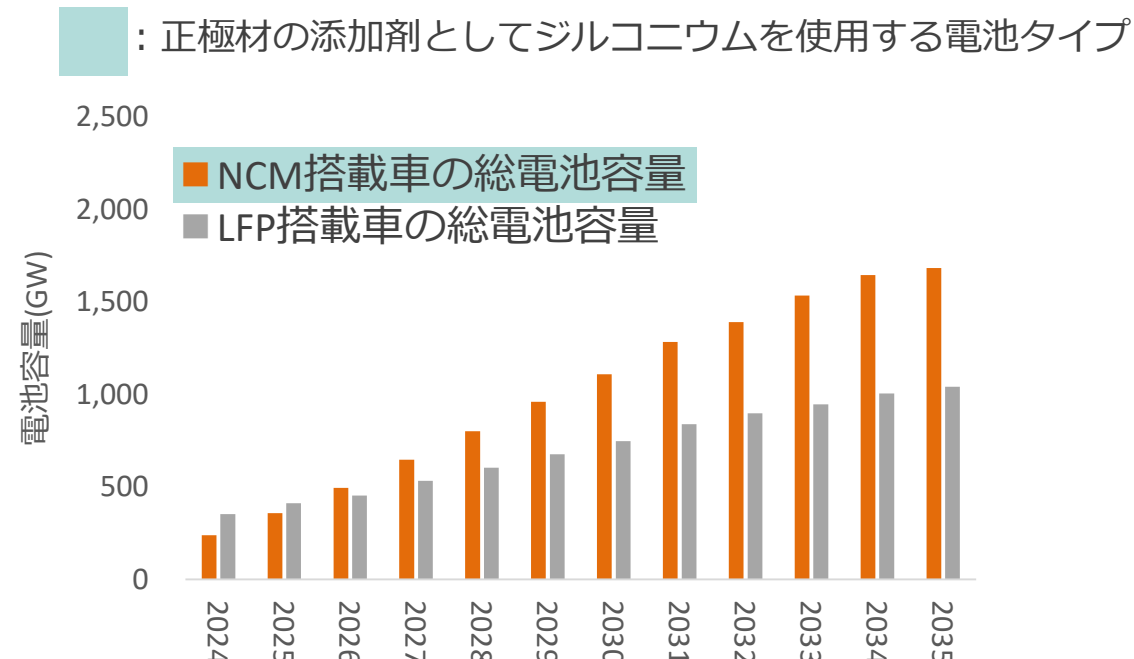


図2. 世界で販売されるNCM搭載車及びLFP搭載車の総電池容量(2024年)

- 台数基準では、NCM搭載車はLFP搭載車を下回るが、2033年に同等となる見通し(図1)
- 電池容量基準では、NCM搭載車は2026年にはLFP搭載車を上回ると予想される。NCM搭載車の総電池容量の増加に伴いジルコニウムの使用量も増加するため、中長期的には当社製品の需要も拡大する見通しである(図2)

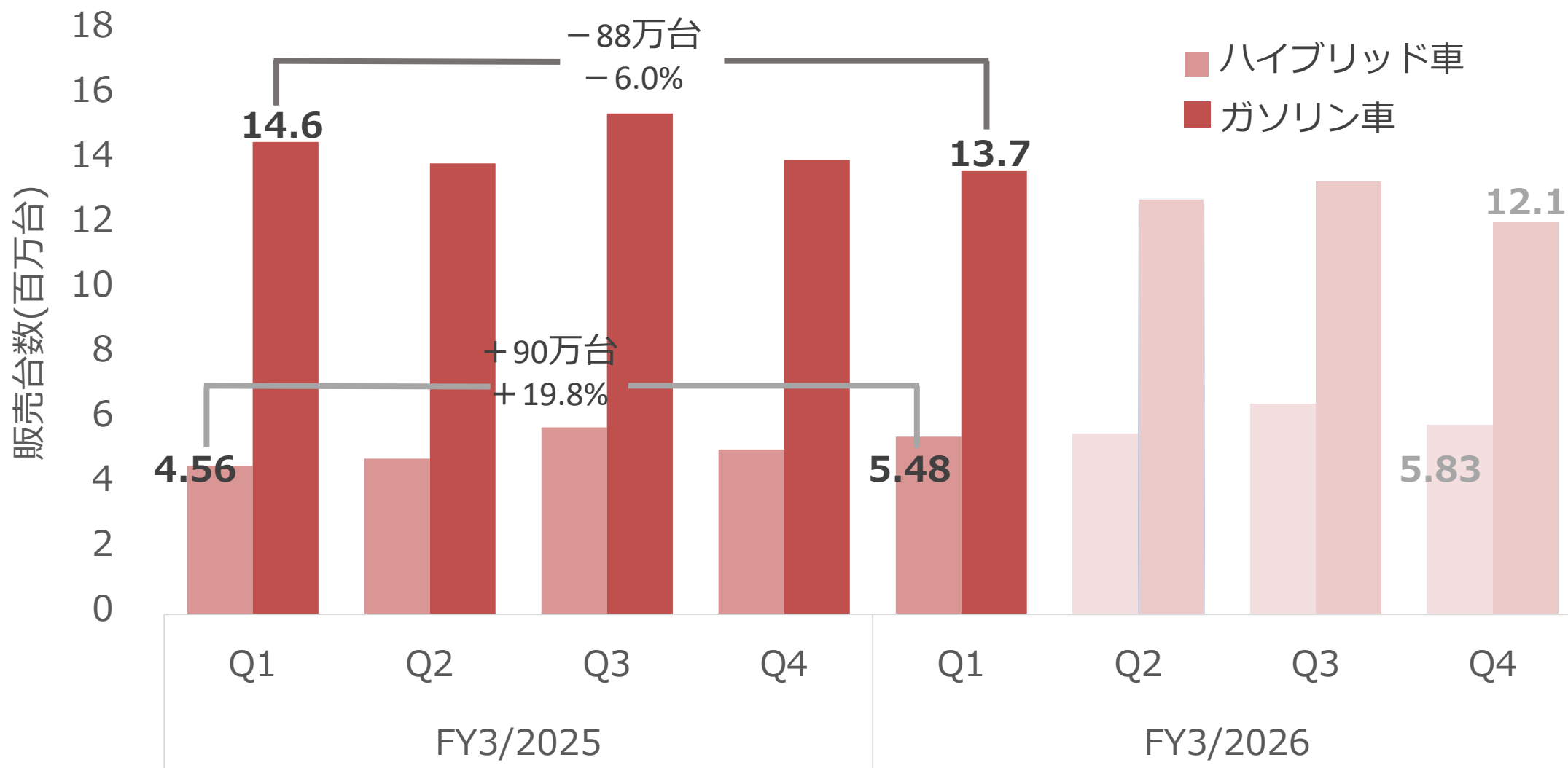
※1) NCM : ニッケル・コバルト・マンガンが主成分のリチウムイオン電池の正極材

※2) LFP : リチウム・鉄・リンが主成分のリチウムイオン電池の正極材

Global dataをもとに当社作成



自動車排ガス浄化触媒分野 内燃機関搭載車販売台数の推移



貸借対照表

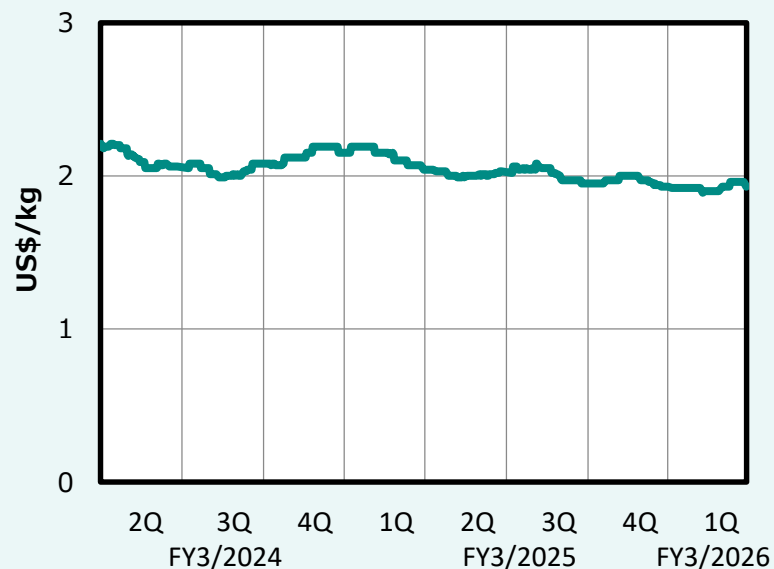
(単位：百万円)

	2025年3月期 (2025/3/31)		2026年3月期 (2025/6/30)		増減
	金額	比率	金額	比率	
(資 産 の 部)					
流 動 資 産	31,932	49.3%	30,646	49.5%	-1,285
固 定 資 産	32,822	50.7%	31,225	50.5%	-1,597
資産合計	64,754	100.0%	61,872	100.0%	-2,882
(負 債 の 部)					
流 動 負 債	8,708	13.4%	8,134	13.1%	-573
固 定 負 債	17,562	27.1%	15,625	25.3%	-1,937
負債合計	26,271	40.6%	23,760	38.4%	-2,511
純 資 産	38,483	59.4%	38,112	61.6%	-371
負債＋純資産	64,754	100.0%	61,872	100.0%	-2,882
発行済株式数(千株)		24,400		24,400	－
B P S (円)		1,565.62		1549.76	-15.86
自己資本比率		58.6%		60.7%	2.1%

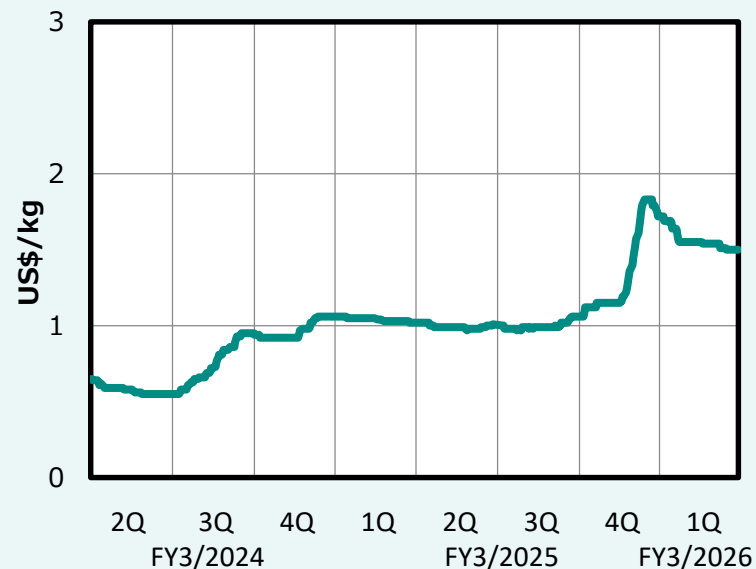
- 資産の部：棚卸資産の適正化と減価償却の進行等により減少
- 負債の部：長期借入金の返済進捗により減少

原料市場価格の状況

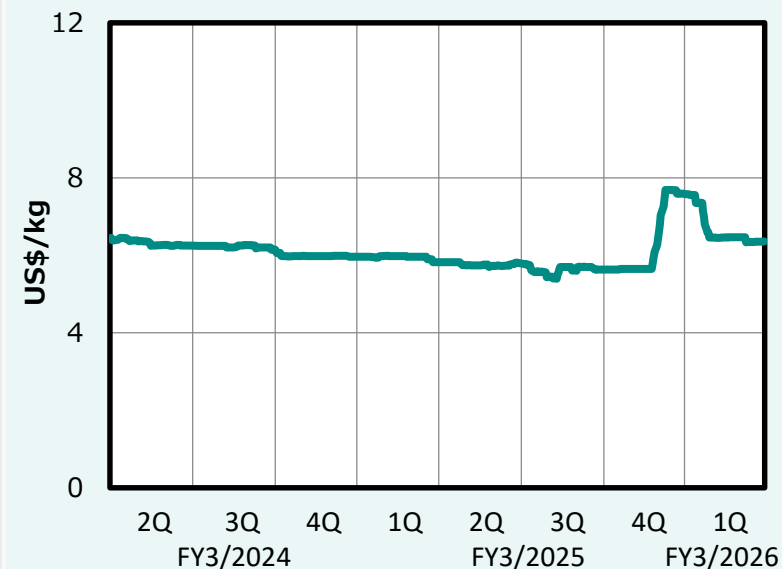
オキシ塩化ジルコニウム



酸化セリウム



酸化イットリウム



(出所：Asian Metal中国国内価格データを基に当社作成)

« オキシ塩化ジルコニウム »

- 中国の内需低迷により低位安定

« 酸化セリウム »

- 中国メーカーの生産調整により上昇

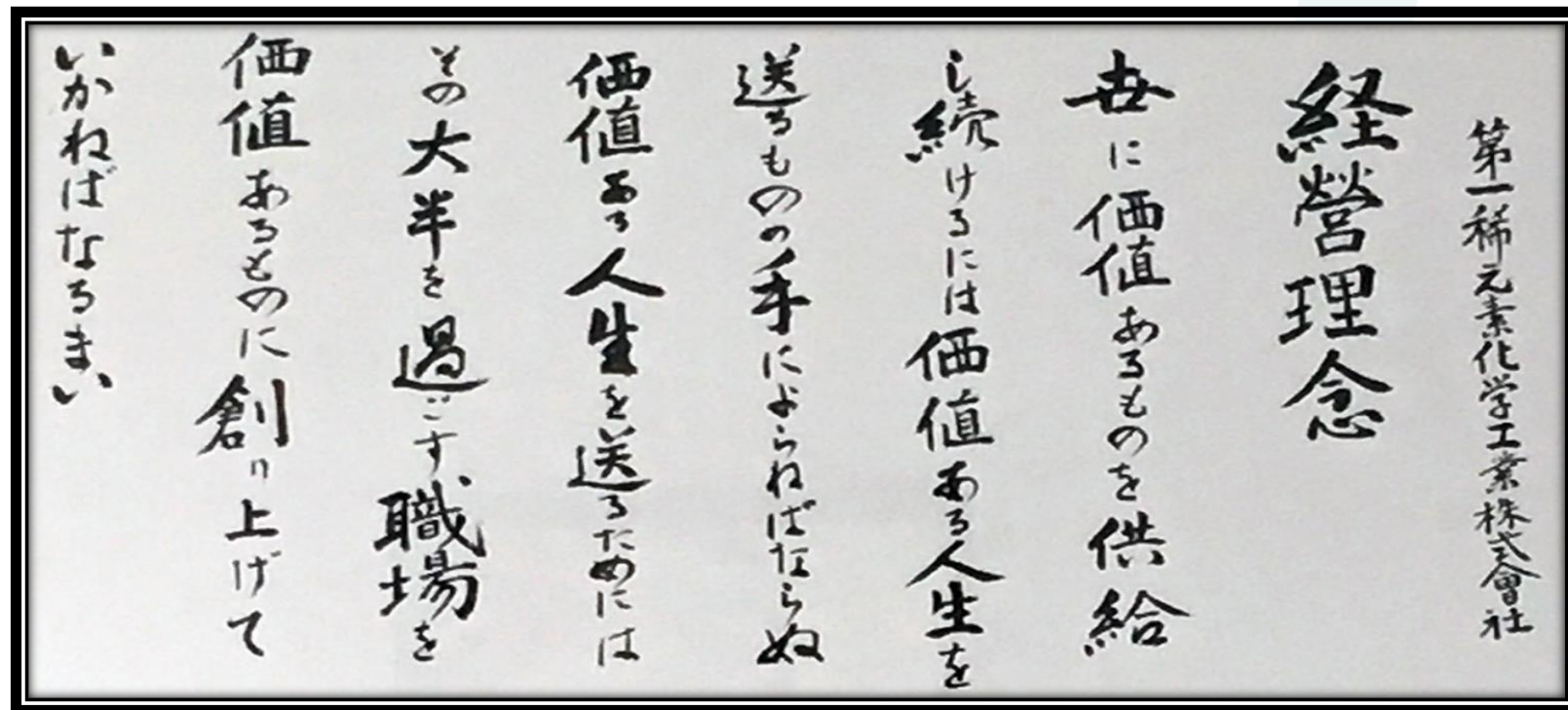
« 酸化イットリウム »

- 中国の輸出規制強化の影響により上昇

APPENDIX



第一稀元素化学工業紹介



価値あるもの

社会課題の解決に貢献する独創的で付加価値の高い製品

価値ある人生

自身の夢や理想の実現に向かって成長する公私ともに充実した生き方

価値ある職場

ジルコニウムトップメーカーの一員であることに誇りを持ち、キゲンソらしさを体現する仲間がいる職場

(キゲンソらしさ; チャレンジ精神を持つ、チャレンジするメンバーを周囲が全力で支援する、多様な働き方や価値観を尊重する、というキゲンソの風土)

ビジョン

稀な元素とともに、「100年企業」へ

100年企業には「2056年3月期に設立100期を迎える企業」と「永続的に成長を続ける企業」の2つの意味を含めました。

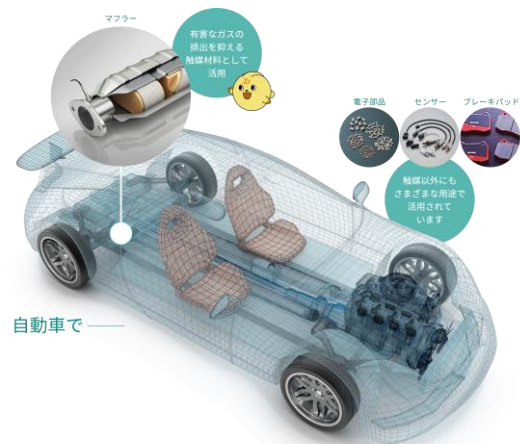
ジルコニウムは多様な機能を発現するたぐい稀なる元素です。

この稀な元素の無限の可能性を引き出し、世の中に必要とされる企業グループであり続けます。



ジルコニウムとは

ジルコニウムは、原子番号40の元素でレアメタルの一種です。
熱や腐食に強く化合物となることで、さまざまな特性を発揮します。



私たちは、

ジルコニウム化合物の世界トップメーカーです。

設立

1956年

半世紀以上にわたって、ジルコニウム化合物の特性解明とその応用開発に取り組んできました。

触媒材料の世界シェア

約40%

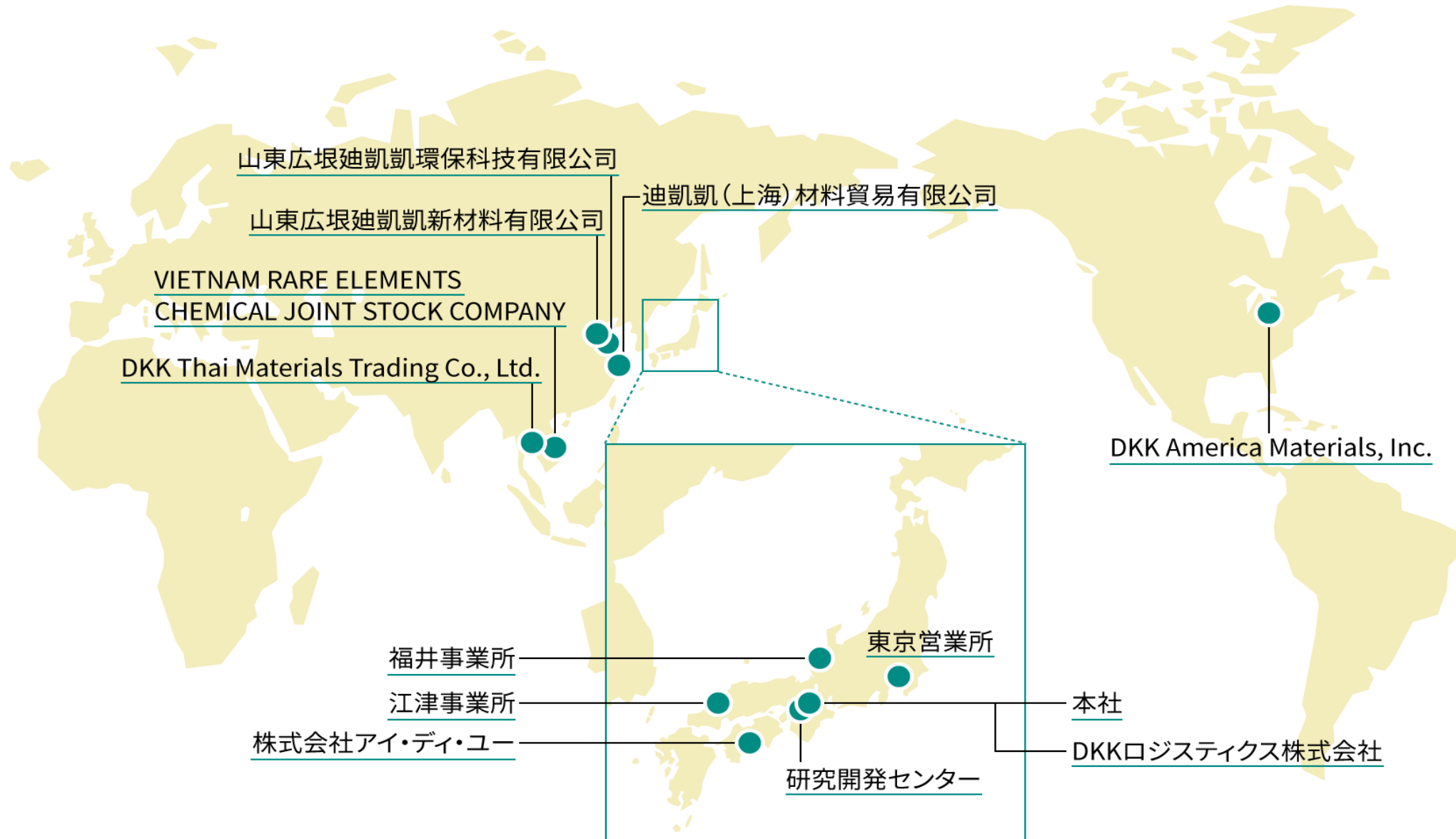
排ガス中の有害物質を取り除く触媒材料など、世界の自動車産業にとって無くてはならない製品を供給しています。

4/10は
ジルコニウムの日



< 第一稀元素 マスコットキャラクター >

DKKグループ ネットワーク



研究開発拠点：研究開発センター

➤ 戦略分野の研究開発力を強化

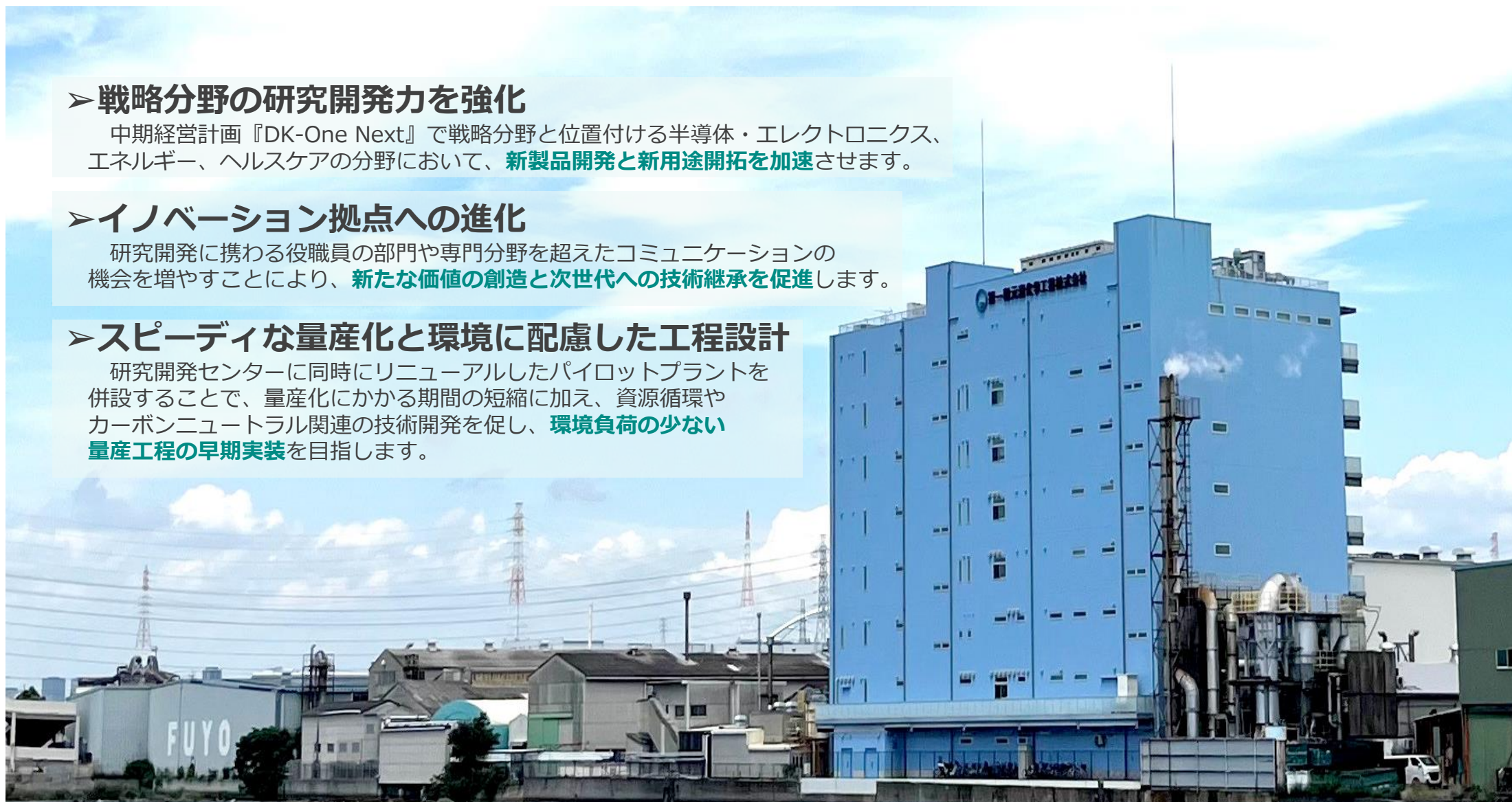
中期経営計画『DK-One Next』で戦略分野と位置付ける半導体・エレクトロニクス、エネルギー、ヘルスケアの分野において、**新製品開発と新用途開拓を加速**させます。

➤ イノベーション拠点への進化

研究開発に携わる役職員の部門や専門分野を超えたコミュニケーションの機会を増やすことにより、**新たな価値の創造と次世代への技術継承を促進**します。

➤ スピーディな量産化と環境に配慮した工程設計

研究開発センターに同時にリニューアルしたパイロットプラントを併設することで、量産化にかかる期間の短縮に加え、資源循環やカーボンニュートラル関連の技術開発を促し、**環境負荷の少ない量産工程の早期実装**を目指します。



ベトナム子会社：VIETNAM RARE ELEMENTS CHEMICAL JOINT STOCK COMPANY

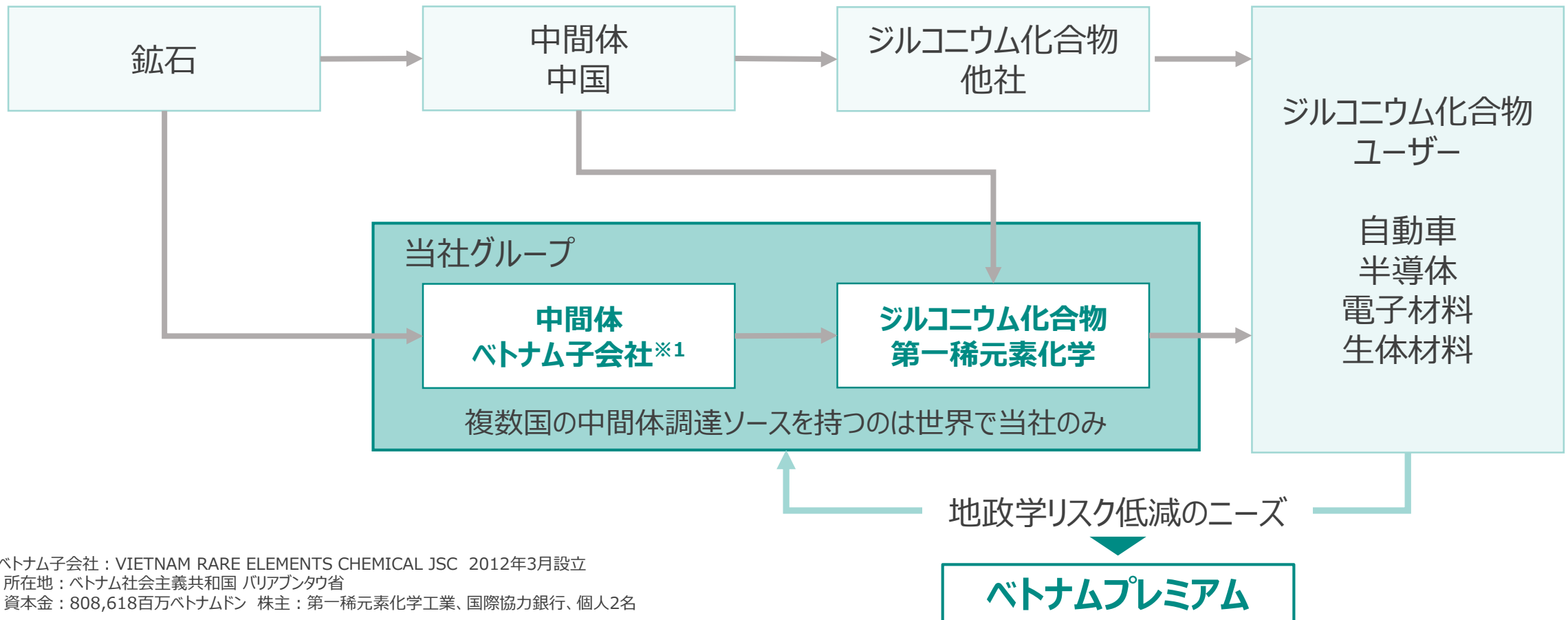


- ベトナムは、ジルコニウム原鉱石埋蔵量が豊富
- 主原料の調達において、中国一國依存を解消
- 環境に配慮した工場設計



ベトナム事業 – 地政学リスク低減に向けた取り組み –

- ✓ 地政学リスクに左右されない材料供給体制構築のためにベトナム事業を開始
- ✓ ジルコニウムは日米の特定重要物資※2に指定
- ✓ 地政学リスクが高まり、複数国の中間体調達ソースを持つ当社グループへの引き合いが増加



※1 ベトナム子会社：VIETNAM RARE ELEMENTS CHEMICAL JSC 2012年3月設立
所在地：ベトナム社会主義共和国 パリアブントウ省
資本金：808,618百万ベトナムドン 株主：第一稀元素化学工業、国際協力銀行、個人2名

※2 参考：経済産業省 重要鉱物に係る安定供給確保を図るための取組方針
U.S. Geological Survey Releases 2022 List of Critical Minerals

中期経営計画



「DK-One Next」 6つの柱で変化に適応

- ✓ 6つの柱を軸に、変化に強い企業体質を築き、持続的な成長を追求



目標達成に向けた6つの柱の取り組み

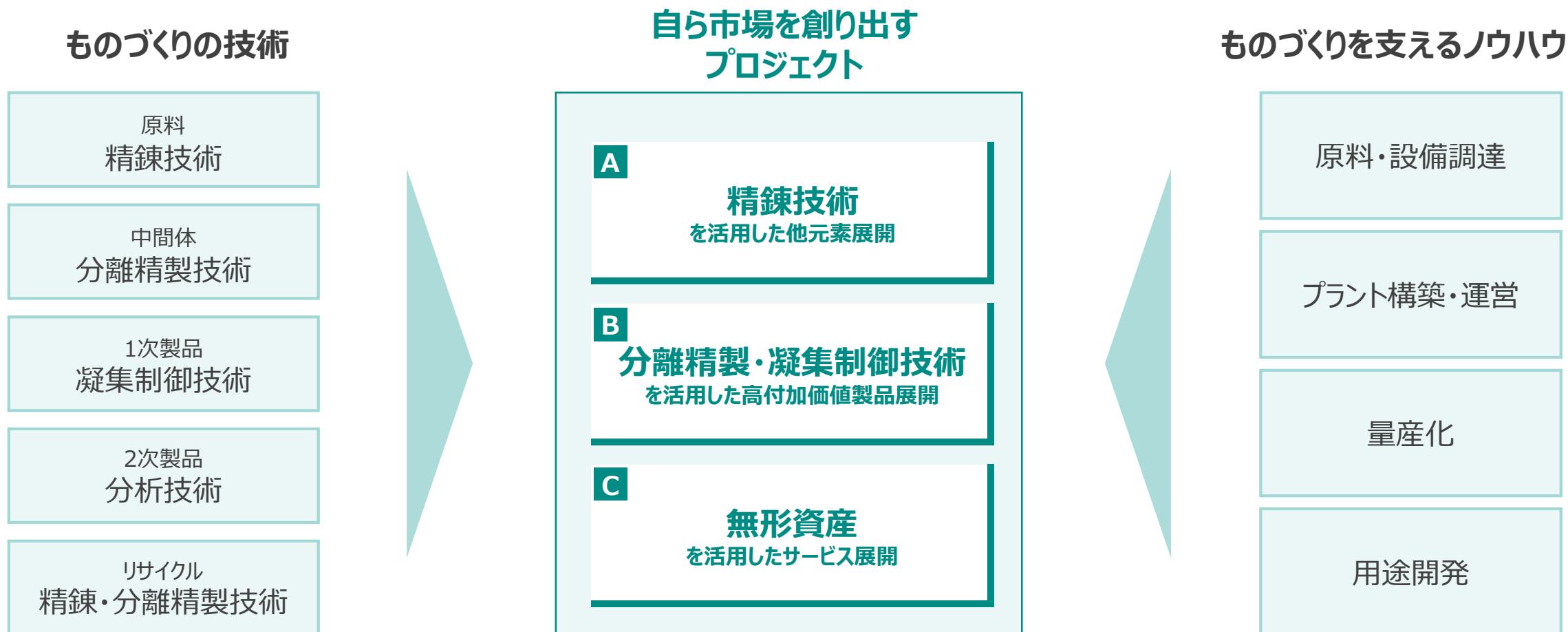
✓ 6つの柱の活動をガバナンス体制のもとでモニタリングし、進捗状況をステークホルダーに報告

柱	活動テーマ	モニタリングする主な内容	ROIC	財務・非財務
新規事業の創出	■ 特定用途・産業に依存しない収益基盤を構築	■ 概念実証(Proof of concept)ステージへの到達率 ■ 戦略分野の売上高成長率	✓	
収益構造の改革	■ 既存事業の収益性・効率性を高める収益構造の改革	■ VREC生産品目の製造コスト ■ VREC生産品目の売上貢献額 ■ 自動車排ガス浄化触媒及び基盤分野の利益成長率 ■ 棚卸資産回転月数	✓	
革新的なもののづくりの実現	■ 製品開発プロセスの変革 ■ 生産性の変革（DXなどの活用）	■ 革新的プロセス設計の進捗度 ■ 物的労働生産性	✓	
成果を出し続ける組織づくりの実践	■ 持続的な成長を支える組織構造・制度および文化の変革	■ 付加価値労働生産性	✓	✓
キゲンソらしさの醸成	■ チャレンジ精神をグループ全体へ浸透 ■ 心身ともに健康で安全な職場づくり	■ チャレンジに肯定的な従業員の比率 ■ 安全文化成熟度（外部機関評価）		✓
サステナビリティへの取り組み	■ 温室効果ガスの削減 ■ 再生可能な資源の利用 ■ 人権デューデリジェンスの実施 ■ ダイバーシティの尊重および活用	■ 二酸化炭素排出削減量 ■ ジルコニウム廃棄物再生事業売上 ■ サプライチェーン上人権侵害件数 ■ 女性管理職比率		✓



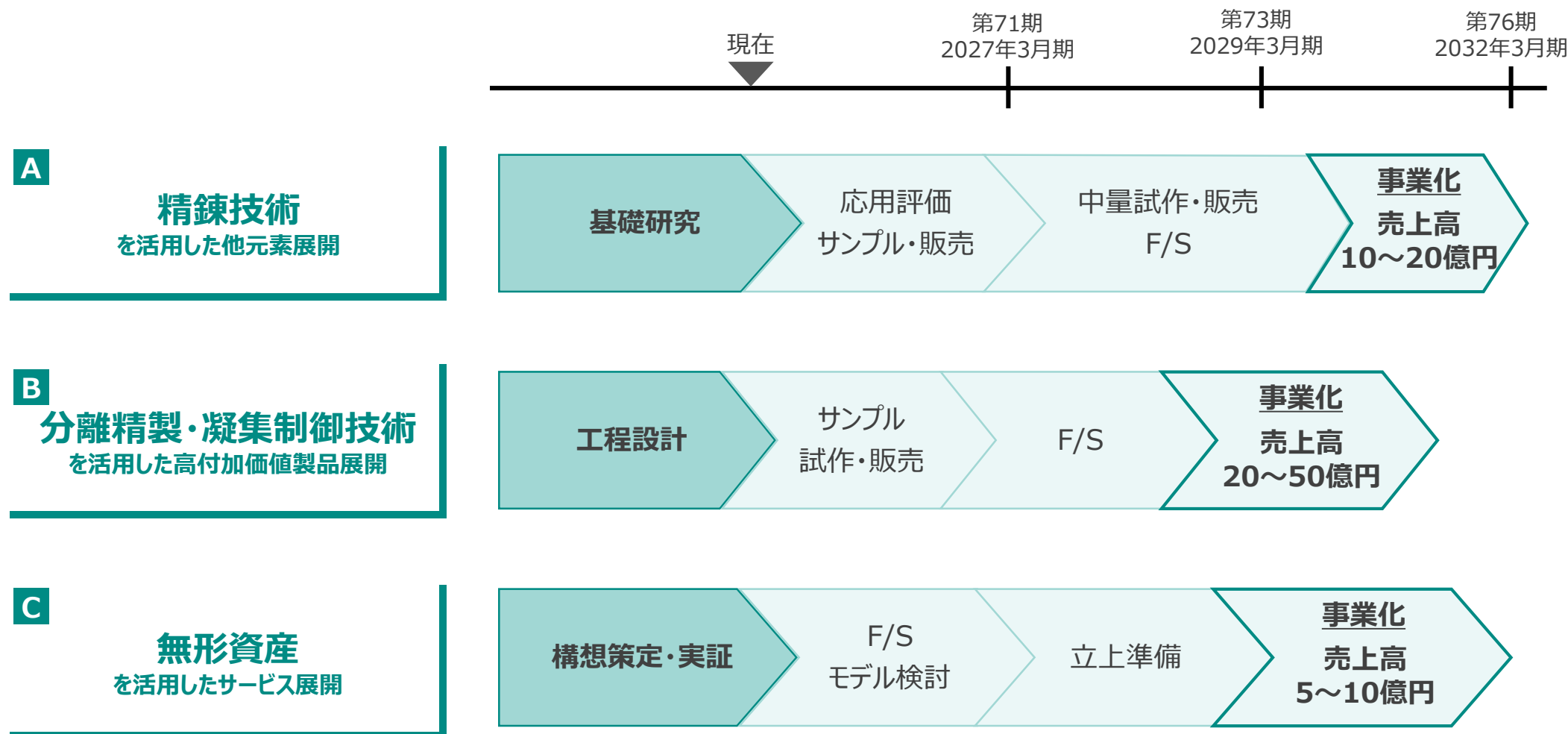
新規事業による市場の創出 – 技術・ノウハウ活用 –

- ✓ 創業70年で積み上げたものづくりの技術とノウハウを活用することで、自ら市場を創り出すプロジェクトに取り組む



新規事業による市場の創出 – 具体的な取り組み –

- ✓ 3つのプロジェクトを段階的に推進し、売上成長と営業利益率30%の実現で、第76期目標の達成をけん引



※2026年3月期 第2四半期に進捗報告予定

製品の紹介



■ 世界半導体市場規模

5,000 億米ドル
(2021年)

1.3倍

6,500 億米ドル
(2025年)

出典 : <https://www.semi.org/en/semiconductor-industry-2015-2025>

一般的な研磨への応用

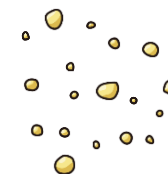
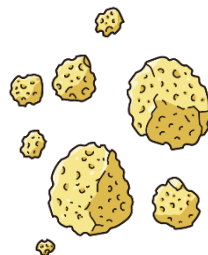
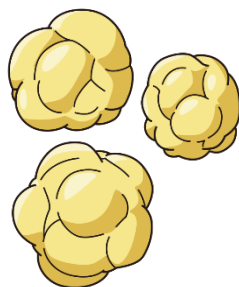
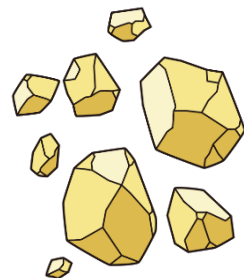
工程の
概略図

粗研磨

中間研磨

仕上げ

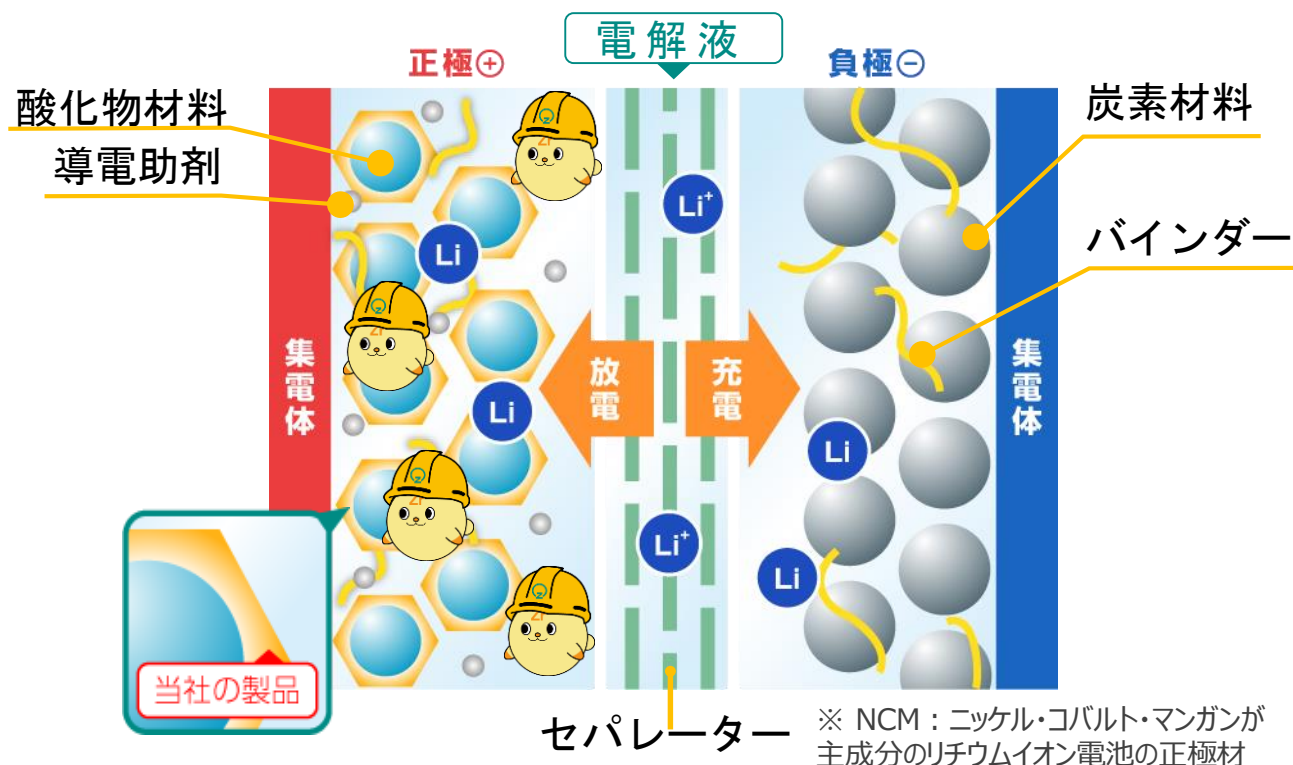
粉体の
イメージ図



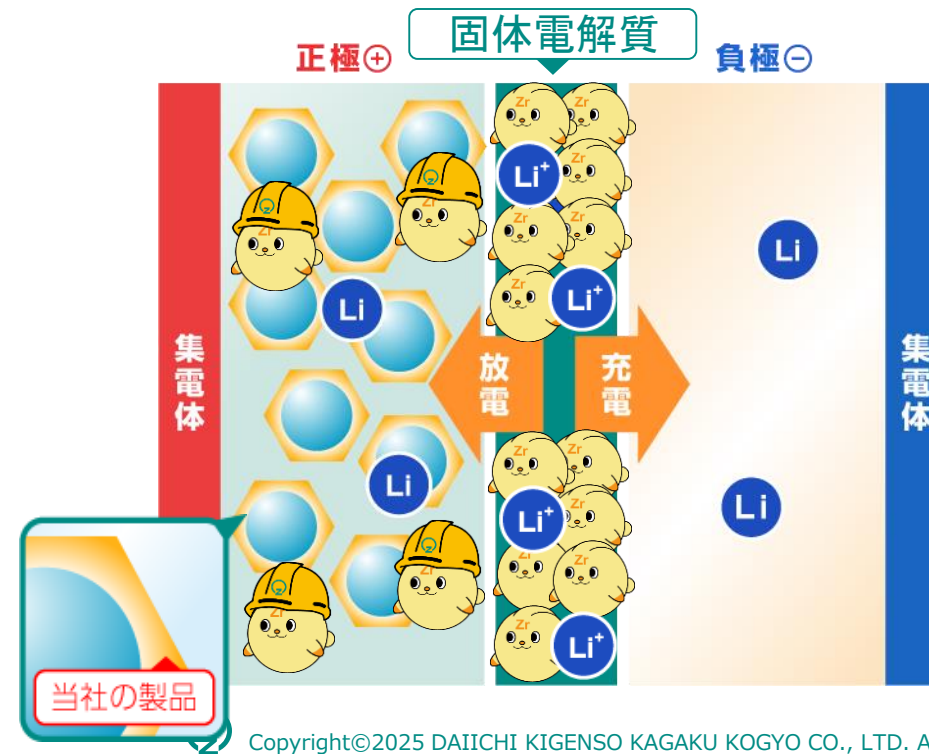
将来を見据えた電池材料の開発

リチウムイオン電池正極材の添加剤として電池の安全性、長寿命化に貢献しています
また、将来の全固体電池では異なる役割（電解液の代替）を担うことを期待されています

現行のリチウムイオン電池（NCM※）



将来の全固体電池 (リチウム・ランタン・ジルコニウム：LLZ)





DURAZR®-Sシリーズ HSY-0480

(以下、当社従来品比を記載)

レアアースフリー※1

※1)Ca安定化ジルコニア

産出国が限定されるレアアースを含まない



水熱劣化※3耐性 UP

※3)使用環境下の熱水・熱による劣化の進みやすさ

高靱性※2

約 **3** 倍

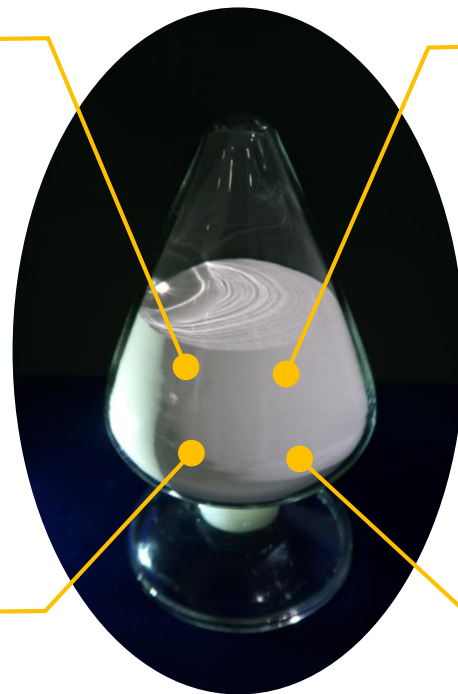
※2)しなやかさ

構造体の小型化・薄膜化に貢献



CO₂ 排出量低減※4

※4)当社従来品より約200℃低い焼結温度を実現



本資料に関する注意事項

当資料で用いられている業績予想ならびに将来予測は、国内および諸外国の経済状況、当社の事業に関連する業界の動向についての見通し、その他当社業績へ影響を与える要因について、現在入手可能な情報をもとにした予想を前提としています。

これらは、市況・競合状況・当社新製品の採用の可否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従いまして、当予測と実際の業績が大きく異なる場合があることをご了解いただきますようお願い致します。

第一稀元素化学工業株式会社
経営企画部 IR担当
Mail : kikaku4082@dkkk.co.jp



お問い合わせはこちら

